

会議の概要報告	
1. 会議の名称	第1回 甲賀市し尿くみ取り券売上金不足問題第三者調査委員会
2. 開催日時	令和7年9月1日（月） 17時00分 ～ 18時15分
3. 開催場所	甲賀市役所 別館会議室101
4. 議題	・ 甲賀市し尿くみ取り券売上金不足問題第三者調査委員会について ・ 委員長及び職務代理者の選任について ・ 概要及び今日までの経緯について ・ 今後の調査方法等について
5. 公開又は非公開の別	☐ 公開 ☐ 一部公開 ☒ 非公開 （一部公開・非公開の理由）個人のプライバシーの確保、及び委員の闊達な議論の場を確保
6. 出席者	委員 4名（欠席0名） 市長（開会から諮問まで）・事務局職員
7. 傍聴者数	— ※ 諮問までの間のみ、報道関係者へ公開
8. 会議資料	・ 委員名簿 ・ 甲賀市し尿くみ取り券売上金不足問題第三者調査委員会設置要綱 ・ 概要及び今日までの経緯 ・ 旧甲南町におけるし尿汲取り調査にかかる報告書 ・ 旧甲南町し尿くみ取り料金不足問題対策委員会の報告
9. 議事の結果概要	・ 委員長及び職務代理者について 委員長 真山達志 委員（同志社大学教授） 職務代理者 川瀬新也 委員（弁護士） 【議事】 （1）概要及び今日までの経緯について <u>主な意見及び質疑</u> ・ 具体的な業務の流れ、フロー等の共通認識をした上で、どこに問題があったのか検証する必要がある。 ・ もっと早くに発覚して然るべきものが発覚せず、何故ここまで放置されたのか。 ・ これからの調査の過程で、この時期に一体どういう調査がされて各自の認識がどうだったのか、これから問われるこ

とになる。

(2) 今後の調査方法等について

主な意見及び質疑

- ・不足が発生した時期は、おそらく20年以上前に起こっているとなると、時効であるため法的責任は追求できない。
- ・行政責任という観点から当時の業務の仕方、問題発覚後の内部調査の仕方が適正かつ公平に行われていたのかが今回の調査のポイントである。
- ・本来どう対応すべきだったのか、当時の調査委員会の進め方とともに検証することは必要である。
- ・原因の追及に限界があったことは率直に認めつつ、どうあるべきだったのかということを提言するということにならざるを得ないを考える。
- ・事件発覚当時の事実関係や責任の所在を改めて明らかにすることは現実的に難しいことは共通理解と考える。
- ・事件が発生した背景やその構造的な問題、その問題を認知した後の旧甲南町や甲賀市の調査や対応の適正さにかかる検証を中心に行い、そのことを踏まえ、今後の再発防止策を提言する。
- ・問題が発生した背景、理由をもう一度、本委員会として、外部の立場から客観的に検証する。
- ・平成19年度の調査以上に記憶は薄れているため、再度当時のような聞き取り調査はしないが、調査にかかわった職員に対する聞き取りが必要となる可能性はある。
- ・合併前後の引継ぎについては、明らかにしておく必要がある。
- ・甲賀市の問題ではあるが、し尿に関連する一部事務組合等も含めて、どのような仕組みでどのような事務処理が行われていたのかは検証する必要がある。

【まとめ】

(1) 今後の流れについて

第1段階 合併までのくみ取り券販売を中心とした仕組みや事務処理の仕方、職員がどういう意識でどのように関わっていたのか、どういう職位の人がどんな責任を持っていたのかなど体制や手続きを検証して、問題点を指摘する。

第2段階 問題が発覚した後の調査を含めた対応の仕方が適切であったか、内部調査の部分を中心に実態と問題を明らかにする。

第3段階 合併時に引継をしていないことについての事実関係、問題点を解明する。

第4段階 甲賀市の検討の仕方、対応の仕方の実態と問題点

	を明らかにする。 まとめ 今後のあるべき姿、再発防止に向けた提言をする。 (2) 答申の時期について 年度内（令和8年3月）を目安とする 【次回の委員会について】 第2回 9月29日（月）10時～12時 ・ 必要に応じて、当時の担当者の出席を求める。（会議までに委員長が判断する。） ・ 手順、仕組み、フローなど可能な範囲で資料化し、事前に事務局から委員に事前に郵送。
10. その他	委員会終了後（19時～）の委員長による記者会見を実施